2021 ぎふ平和のつどい

ニュース　第3号　2021 年 9 月発行

「2021 ぎふ平和のつどい」
実行委員会　編集
（ 委員長:平方浩介 ）

事務局:「岐阜・九条の会」
（岐阜県教育会館3F 304 号）

金平茂紀さん(講演)と崔善愛さん(ピアノ演奏)・・今年は開催へ！

日本国憲法公布 75 周年記念日の今秋 11 月３日、今年の「ぎふ平和のつどい」を行います。昨年は新型コロナ感染予防のために休止しましたが、今年は、コロナ感染防止対策を万全に行い、人数制限して、開催することになりました。

なお、当初予定していた斎藤貴男さんは手術のため辞退されましたので、講演は「報道特集」キャスターの金平茂紀さんに急遽お願いできました。コロナ対策・ワクチン接種で重大な失策を重ねている政府は、「いのちより経済・五輪」を強行し、さらに憲法の改悪も画策しています。平和と人権を心から願う私たちは、「ぎふ平和のつどい」を成功させたいと思います。ご協力よろしくお願いします。

「ぎふ平和のつどい実行委員会」　連絡先：090-7917-9602(吉田)

＊新型コロナ感染防止対策のため、入場者の上限を 500 名（定員の約３分の１）とします。
＊入場料・申込み方法など、詳細は、チラシまたは「岐阜・九条の会」HP をご覧下さい。→末尾参照

2021 ぎふ平和のつどい

2021 年 11 月３日（祝）
13:30～16:00　受付：12:30
会場：岐阜市民会館大ホール
講演：金平茂紀さん（ジャーナリスト）
公演：崔 善愛さん（ピアニスト）

★ 金平茂紀(かねひらしげのり)さん プロフィール ★

テレビ記者・キャスター。早稲田大学大学院客員教授。1953 年、北海道生まれ。1977 年、TBS 入社。以降、同局でモスクワ支局長、ワシントン支局長、「筑紫哲也 NEWS23」編集長、報道局長などを歴任。2010 年より「報道特集」キャスター。2016 年、執行役員退任にともない TBS 退社。現在も「報道特集」キャスターを続けるほか、「ネコタチノトオボエ」など SNS でも積極的に情報発信。

著書に『ロシアより愛をこめて』『二十三時的』『テレビニュースは終わらない』『沖縄ワジワジー通信』『抗うニュースキャスター』『漂流キャスター日誌』など多数。最新刊は、『筑紫哲也 NEWS２３とその時代』『白金猿Ⅱ』。

＜金平茂紀さんからのメッセージ＞

長期化するコロナ・ウイルスの世界的流行のなかで、私たちは、この社会のさまざまな変化を経験してきています。人となるべく会わないことが推奨されたり、活動を自粛するよう求められたり、自由にものを言いにくい相互監視の風潮が生まれたり・・。地域で暮らす市民が、市民集会ひとつ開くことさえ、大変な苦労がともなう世の中になってしまいました。 今回、この会を実現するのにも大変なご苦労があったものと推察されます。でも、だからこそ、今、私たちは、自分たちの歩んできた道のりを謙虚に振り返り、かつ、これから進むべき道筋をみんなで「正気を保ちながら」考えていく必要がある時代にさしかかっているのでしょう。テレビ報道の取材現場から学んだことを皆さんにご紹介しながら、ともに可能性を秘めた何かを生み出していきましょう。

正気であるために・・金平さんのお話を楽しみにしています

毎回欠かさず見ている、「報道特集」の金平キャスターが「ぎふ平和のつどい」に来てくださるなんて、感激です。小さな子どものいる私が、なぜ毎週土曜日の夕方に「報道特集」を観るのか、まさに、この混乱の時代に正気でいたいからなのだと思います。未来の日本が、今よりも１ミリでも良いものであるために、白い目で見られても、友だちが減るのだとしても、正気の声を上げたいと思っています。

二俣 佳織（喫茶 ‘Peace’）

★ 崔（チェ） 善愛（ソンエ）さん プロフィール ★

1959年兵庫県生まれ、北九州市出身。ピアニスト。21歳で外国人登録証の指紋押捺拒否、それにより米国留学の際、再入国不許可となり、特別永住資格を剥奪された。その後様々な裁判経過を経て、1999年原状回復.した。「ショパンの手紙」などのコンサート活動とともに、現在、週刊『金曜日』の編集委員として、人権問題を中心に健筆を振るっている。主な著書に『「自分の国」を問いつづけて』（岩波ブックレット）、『父とショパン』（影書房）、『ショパン～花束の中に隠された大砲』（岩波ジュニア新書）など。CDに『ZAL』（ショパン作品集）などがある。

＜崔 善愛さんからのメッセージ＞

2020年に入るや世界は一変、コロナ感染をおそれ、人を遠ざける日々が続いています。職を失い窮地に立たされる命。先が見えない、子どもたちの未来。いまこそ私たちは語り合い、助け合う共同体が必要です。歴史を振り返っても、世界の指導者たちを見ても、国家ははたして平和の思想を実現する共同体となっているでしょうか。国益は、つきつめれば利己主義、自国のみの利益のために他国を排除します。それは平和とは相いれないものです。国を越えて、すべての命が輝けるよう、みなさんの想いと願いを語りあえますように。　　その日を心待ちにしています。

この秋は岐阜に行く・・金平さん、崔さんのお話しを聞くために

コロナ禍の日々を私は住まいのある京都市にこもって過ごしてきました。でも、今回は別です。

ニュースを見聞きしていると、変だなと感じることがたくさんあります。むしろありすぎてムカついているうちに前のことを忘れてしまうほど。そんな私に、金平さんは、大切なことはテロップのように流れては消えていくニュースを追いかけることではないと教えてくれる人です。大切なことは、どうして、どこから、そんな酷いニュースが生まれてくるのかをしっかり考えることだと。例えば一見すると無関係に見えるニュースでも、たどっていくと同じところに行きつくことがあります。手間と手続きを重ねて社会のしくみやしかけを自分なりに見通すこと、ニュースはそのためにあるのだと、金平さんは言っているのではないでしょうか。

金平さんは時に語気を荒げます。怒りを隠しません。なぜなら「中立」とは別のところに報道の価値を置いているから。記者会見場で何度も挙手したのに無視された時は、その政治家を控室まで追っていく。カメラがそれを映し出す。テレビの力を感じる瞬間です。解説ではなく批評の言葉を聴けるまたとない機会を、私は今心待ちにしています・・崔さんのピアノとトークも。　　相川 美恵子　(児童文学研究者)

ショパンに深く共鳴する演奏とお話をじかに聴きたい

昨春、崔さんが来ていただけることになって、あらためて崔さんの著作、CD をいくつか読み、聴いた。どれもすばらしかった。大阪の下町で多くの韓国・朝鮮の人と交わって育ったボクの「精神的原風景」は、単なる懐かしさではなく、そこで抱いた大切なものは何であるかを明瞭に教えてもらった。

とくに、祖国から離れて生き、差別・排外に晒された崔さんたち（牧師のお父さん、「指紋押捺拒否」を先に表明された妹さんはじめ大多数の在日の人たち）の苦悩・葛藤と、それを越えて行こうとする姿に、心の底から打たれた。著書をいくつも紹介したいが、崔さんが深く共鳴し、敬愛されているショパンを描いた『ショパン・・花束の中に隠された大砲』（岩波ジュニア新書）をぜひ読んでほしい。若者向けに易しく書かれてあるだけでなく、崔さんにとっては、ショパンは「音楽の師」を越えて闘う「先達」であり、人生の導きの星だったことがしっかり伝わってくるのです。崔さんの演奏とお話をじかに聴(聞)けることを心から嬉しく思います。　　吉田 千秋　（元岐阜大学教授、実行委員会副委員長）

＜事務局（「岐阜・九条の会」）より

ホームページ（HP）は「岐阜・九条の会」で開けます。「ぎふ平和のつどい」欄でご覧下さい。